

説教余滴、2018年1月28日

8世紀前半、イスラム勢力によって占領されたイベリア半島を奪回しようと、キリスト教徒によって始められた国土回復運動、いわゆるレコンキスタは、13世紀になってもその活動の手は止まなかった。彼等は半島中央部のメセタ中央高原にカスティリヤ王国(カスティリヤ=レオン連合王国。1035-1479。実質王国は1715年まで存続)、半島北東部を流れるエブロ川中流域一帯にアラゴン連合王国(1137-1479。1035-1137間はアラゴン王国であるが、その後カタルニャと同君連合。アラゴン王国としては実質には1715年まで存続)、そして半島西南部のポルトガル地方にポルトガル王国(1143-1910)の3国を中心に発展を遂げ、国土回復運動を展開していった。同君連合とは、複数の君主国の君主が同一人物である状態・体制のことです。英国やフランス、ドイツにも例があります。

スペインに関して書くことにしたのは、カタロニア州が王国からの独立を選んだ、との報道の刺激があります。スペインとは16世紀以来国交がありながら、良く知らないでいる？

最近半世紀の大きな変化もある、もっと知った方が良いのでは、との老婆心？老翁心でしょうか。

16世紀の日本とスペインの間には、国家間関係が本格化する以前から人の往来が見られた。16世紀半ばにゴア、マラッカ、マカオ等にポルトガルが拠点を築き、同国の保護下にイエズス会のアジア布教が本格化する中で、同時期に東・東南アジアの各地を行き来していた日本人と、イエズス会の布教活動に参加していたスペイン人^[9]宣教師が接触する機会が生じたのである。この時期、日本国外でスペイン人と出会った日本人のうち最も重要な人物は、自身キリスト教の洗礼を受け、1549年のフランシスコ・ザビエル(ナバラ王国出身)一行の来日を手引きしたヤジロウである。